

29M-am02

実務実習モデルコアカリキュラムの注射薬調剤の取り組み～第2報～

○原野 晴美¹, 才津 恵¹, 後藤 了重¹, 石井 一也¹, 池田 由香子¹, 大塚 識稔¹,
原 景子¹, 佐藤 英治², 江藤 精二², 吉富 博則² (公立学校共済組合 中国中央
病院薬, ²福山大学薬)

【目的】平成 22 年より始まる実務実習モデルコアカリキュラム(以下コアカリと略す)の準備が様々な方面で進められている。当院では平成 18 年 8 月福山大学薬学部の 4 年生 2 名を受け入れ、「注射薬調剤」に関するトライアル実習を行い、コアカリの検証を行ったので報告する。

【方法】大学側との打ち合わせを 3 度行いながら準備を進めた。まずコアカリの注射薬調剤の方略に示された到達目標と時間配分について見直しを行い、さらに到達目標ごとに実習手順を記載した具体的な実習書を作成した。トライアルは、4 週間の実習約 120 時間のうち 48 時間(32 コマ)をあてて行った。

【結果】注射薬調剤の方略を見直し、薬剤の基礎的な知識を習得する目標と、注射薬説明書を作成し患者に指導を行う目標の 2 つを新たに加え、抗悪性腫瘍剤に関しては、代表的な副作用とその対策、レジメン管理の必要性などが理解できるよう、多くの時間をとることとした。これを実習スケジュールに組み込んだ結果、ほとんどの項目で到達目標に達し、今回設定した内容と時間配分はおおむね適切であると考えられた。また実習手順書にそって実習を行うことで、担当者は指導やその準備に計画性をもって取り組むことができ、標準化にもつながった。

【考察】今回トライアル実習を行ったことで、スタッフ全体のコアカリに対する理解が深まったと思われる。また方略を現場の薬剤師の視点で見直し、新たな到達目標を加え、時間配分を変更することなどで、より臨床に即した実習が行えたと考える。今後もトライアル実習を積極的に行い、コアカリがさらに充実した内容となるよう取り組んでいきたい。